

車門

車門は、船場川と京都から本州の西の端まで続く西国街道の両方から城下町へのアクセスが可能であった。そのため、城へ物資を運ぶための主要な玄関口となっていた。「クルマ」は物資運搬の荷車という意味である。門には本橋と平行して川を渡る乗り物専用の橋が架かっていた。車門には船用の船場川の水辺に出入り口があり、大名が下流へ行く際に利用された。

車門は他の門と異なる特殊なデザインだった。中庭で仕切られた観音開きの二つの城門の代わりに3つの門があり、水辺の入り口と2つの中庭の入り口を持っていた。一番外側の門は橋につながっていて、西に面していた。その横には小さな番所が立っていた。中門は南向きで、同じ広い中庭に面していて、船の乗客や荷物が水辺の扉から入ってくる。一番内側の大きな門（南向き）の上には櫓があり、そこから直角に位置する部分に外門が築かれている。内門の向こうには小さな番所が設けられていた。